

# 安城市の環境の概要

## 1. 気象・土地利用

愛知県内の他地域に比べ、降水量が少なく、年間を通じて気温が高め（冬温かく、夏暑い）である。NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の日射量データベースによれば、安城市の全天日射量は13～14MJ/m<sup>2</sup>・dayで、全国的に見ても、日射に恵まれている。

表 1 平均気温と年間降水量（2004～2013年）

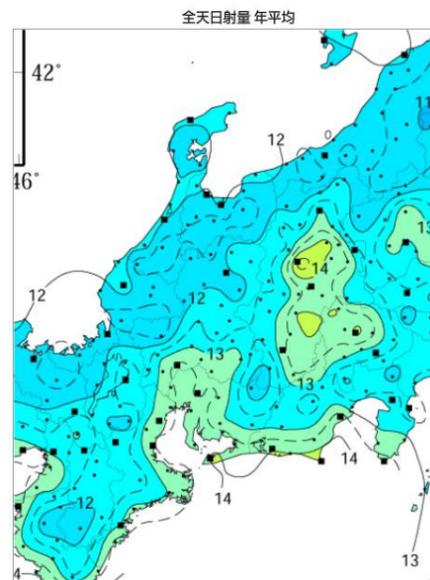
	平均気温 (°C)	降水量 (mm)
安城市	16.3	1,359.2
名古屋	21.1	1,556.0
岡崎	15.6	1,510.0
豊田	15.5	1,472.7

資料：安城市は安城の統計、それ以外は気象庁 HP

表 2 平成 25 年の気温の比較

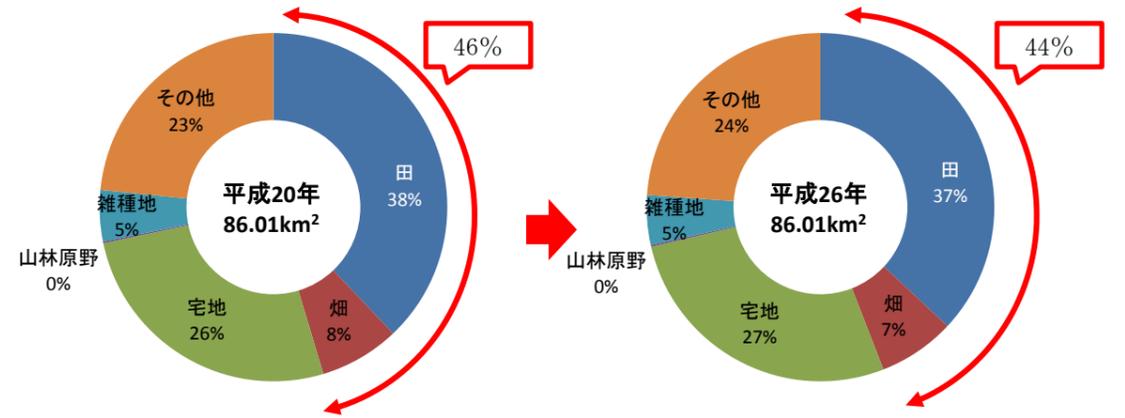
平均気温	安城市	気象庁観測地点						安城市と平均との差
		名古屋	大府	豊田	岡崎	豊橋	平均	
1月	3.9	4.0	4.3	2.8	3.0	4.5	3.7	+0.2
2月	4.7	4.6	4.8	4.0	4.0	5.1	4.5	+0.2
3月	10.4	10.5	10.4	9.8	9.6	10.3	10.1	+0.3
4月	13.9	13.8	13.9	13.1	13.1	14.0	13.6	+0.3
5月	19.2	19.4	19.2	19.3	18.3	18.6	19.0	+0.2
6月	23.2	23.6	23.3	22.9	22.4	22.4	22.9	+0.3
7月	28.1	28.1	28.0	27.1	27.1	26.7	27.4	+0.7
8月	29.3	29.3	29.1	28.4	28.1	28.0	28.6	+0.7
9月	25.0	24.9	24.9	24.2	24.0	24.6	24.5	+0.5
10月	20.2	20.2	20.3	19.5	19.3	20.3	19.9	+0.3
11月	11.5	11.5	11.6	10.2	10.3	12.1	11.1	+0.4
12月	6.4	6.4	6.7	5.3	5.4	6.9	6.1	+0.3

資料：安城市は安城の統計、それ以外は気象庁 HP（大府は平成 24 年 11 月から測定開始）



資料：NEDO 日射量データベース  
図 1 全天日射量 年平均

平成 20 年から 26 年にかけて、田畑の面積が減少し、宅地等の面積が増加している。



資料：安城の統計

図 2 土地の利用面積の変化

表 3 公園面積

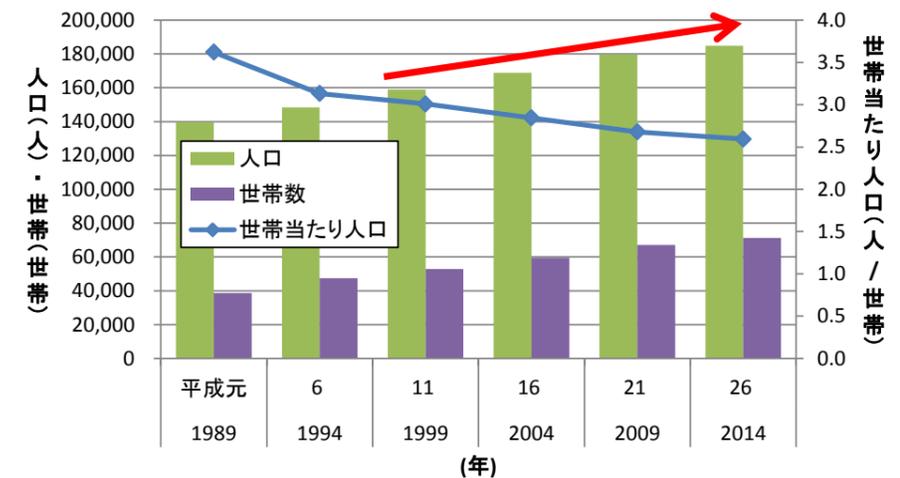
区分	か所数	面積(ha)
運動公園	1	20.04
地区公園	4	17.47
近隣公園	14	28.22
街区公園	72	23.54
緑地	3	1.51
歴史公園	3	2.42
合計	97	93.20

資料：安城の統計

市内の公園は、平成 26 年度 4 月 1 日現在で 97 箇所 93.20ha で、市域の約 1%である。市民一人当たりでは 5.1 m<sup>2</sup>である。

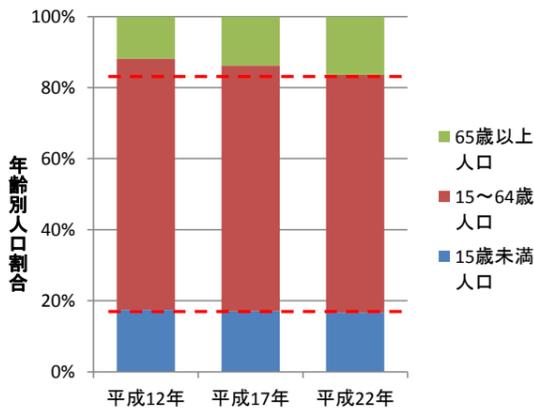
## 2.人口・産業

人口、世帯数ともに増加傾向にある。世帯あたり人口は減少傾向にあり、平成 26 年度では 2.6 人/世帯である。なお、平成 22 年における 65 歳以上の人口は 16.4%で、増加傾向にある。周辺市と比べると、65 歳以上の人口はやや少ない。

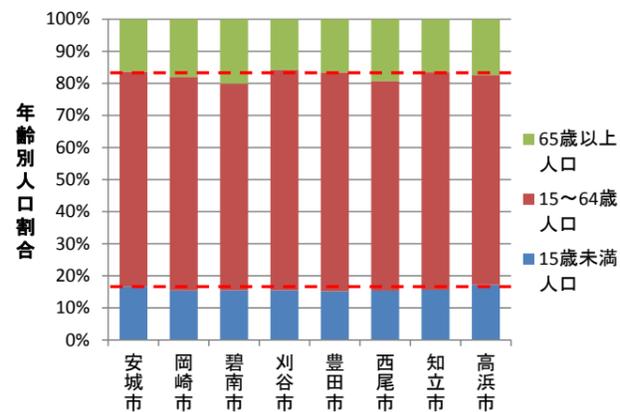


資料：安城の統計

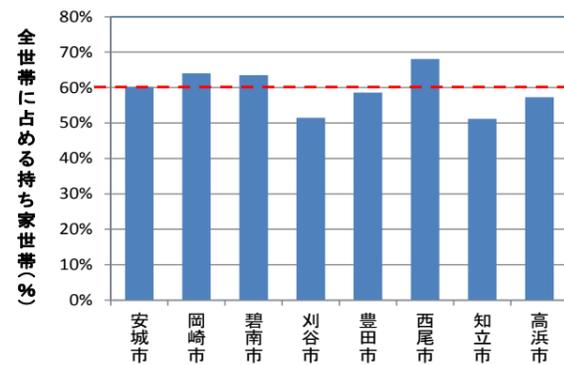
図 3 人口・世帯数の推移



資料：国勢調査  
図4 年齢別人口割合の推移



資料：国勢調査（自治体比較は平成22年）  
図5 年齢別人口割合の推移

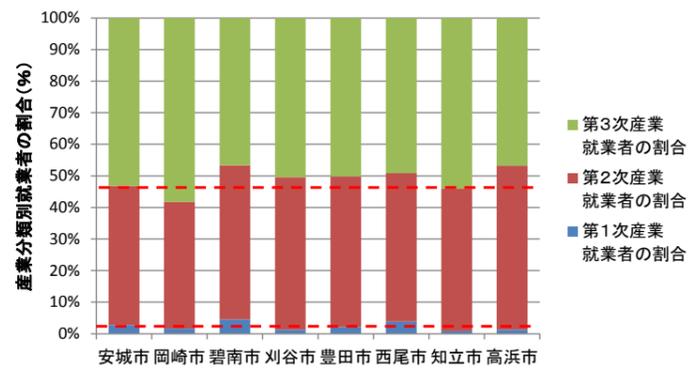


資料：平成22年国勢調査  
図6 全世帯に占める持ち家世帯の割合の比較

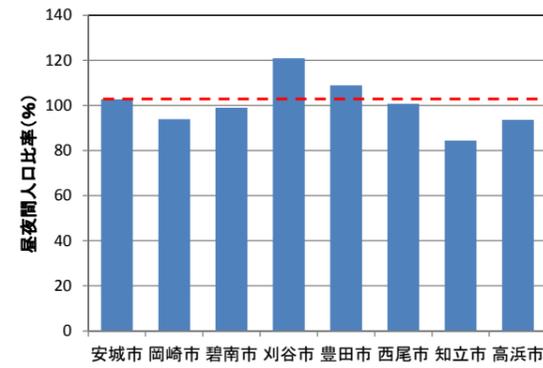
安城市では、約60%の世帯が持ち家であり、周辺自治体に比べてもやや高い。

産業大分類別人口を周辺市と比べると、安城市は第一次産業就業者の割合がやや多く、第三次産業就業者の割合がやや多い。

安城市の昼夜率は、ほぼ100で、ベッドタウンとして人口を増やしてきたものの、現在は就業先も市内に確保されていることがうかがえる。

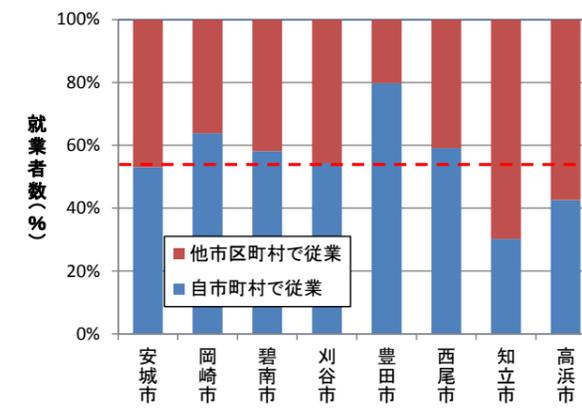


資料：平成22年国勢調査  
図7 産業分類別人口の比較

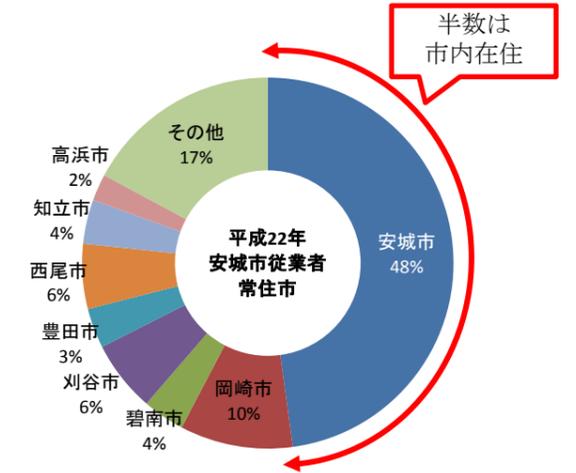


資料：平成22年国勢調査  
図8 昼夜率の比較

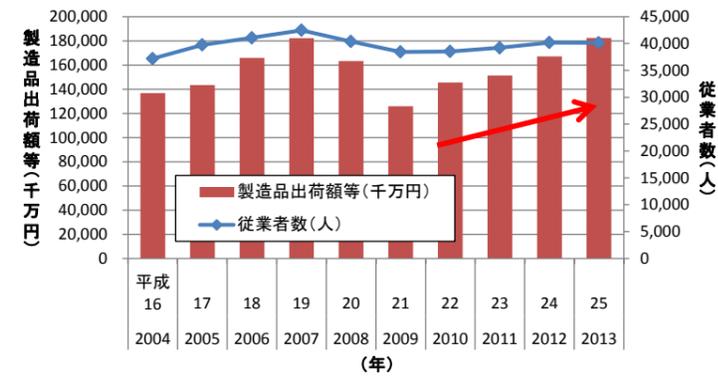
就業者の従業場所は、安城市では約半数が市内で従業している。周辺自治体と比較すると、知立市、高浜市は他自治体で従業する就業者が多いのに対し、安城市を始めとする自治体は、自市内で従業している。なお、安城市内従業者の約半数は安城市在住である。



資料：平成22年国勢調査  
図9 就業者の従業場所の比較

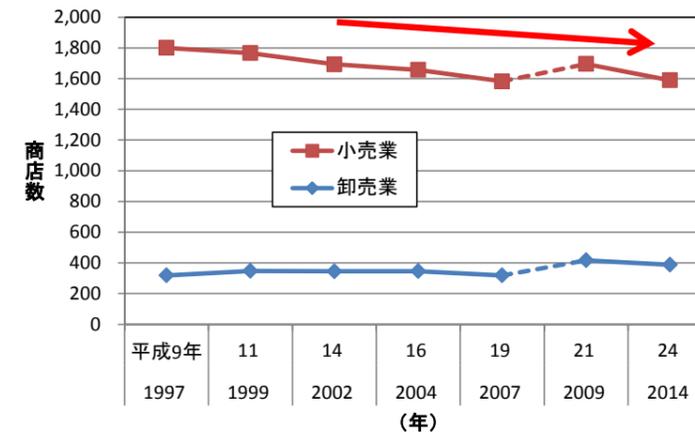


資料：平成22年国勢調査  
図10 安城市従業者の常住市



資料：安城の統計  
図11 製造品出荷額等・従業者数の推移

製造品出荷額等及び製造業の従業者数は、平成19年を境に、それまでの増加傾向から減少に転じたものの、平成21年を境に再び増加傾向にある。平成19年から21年にかけての減少は、世界的な不況の影響によると考えられる。



注：平成21、23年は経済センサスであり、それ以前の商業統計調査とは調査手法が異なるため、差数がすべて増加・減少を示すものではない。  
資料：安城の統計  
図12 商店数の推移

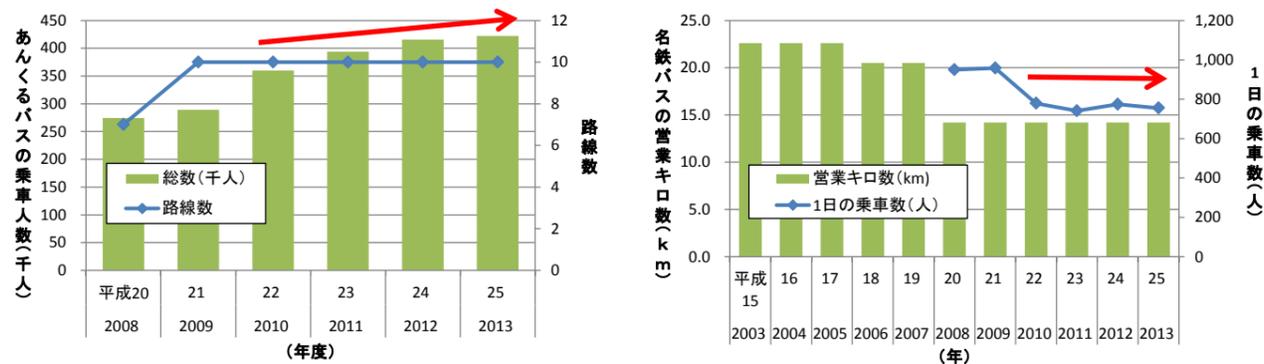
小売業の商店数は減少傾向にある。

持続的な農業生産方式に取り組もうとするエコファーマーは、市内では平成 25 年度に 247 人が認定されている。

このほか、剪定枝の処理、農薬や化学肥料の使用量削減による持続可能な農業の推進や、農地面積の確保、産地直売施設の設置等により環境保全型の農業が進められている。

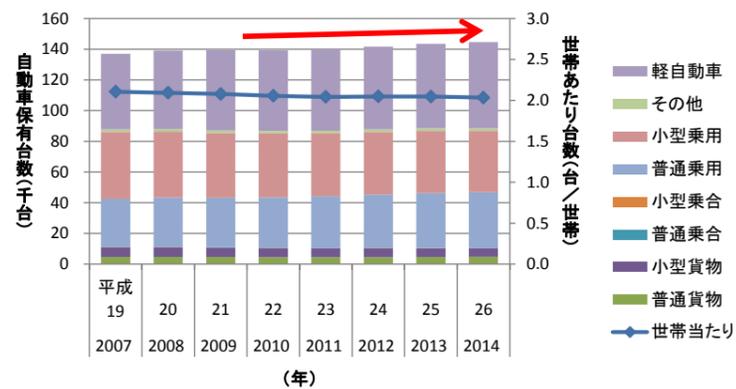
### 3.交通

市内交通では、あんくるバスの乗車人員が増加している一方で、民間の名鉄バスの乗車数が低迷している。



資料：安城の統計

図 13 バスの利用状況の推移

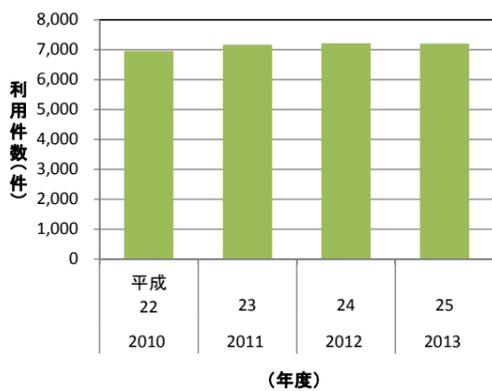


資料：安城の統計

図 14 自動車保有台数の推移

市内の自動車保有台数は増加傾向にある。車種では、軽自動車が多い。世帯当たりで保有台数をみると、微減傾向にあり、概ね1世帯で2台保有していることになる。

平成 26 年度からは、燃料電池自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車を対象とする次世代自動車購入費補助金制度を開始しており、初年度の申請件数は 45 件であった。



資料：環境首都推進課提供

図 15 レンタサイクル利用件数の推移

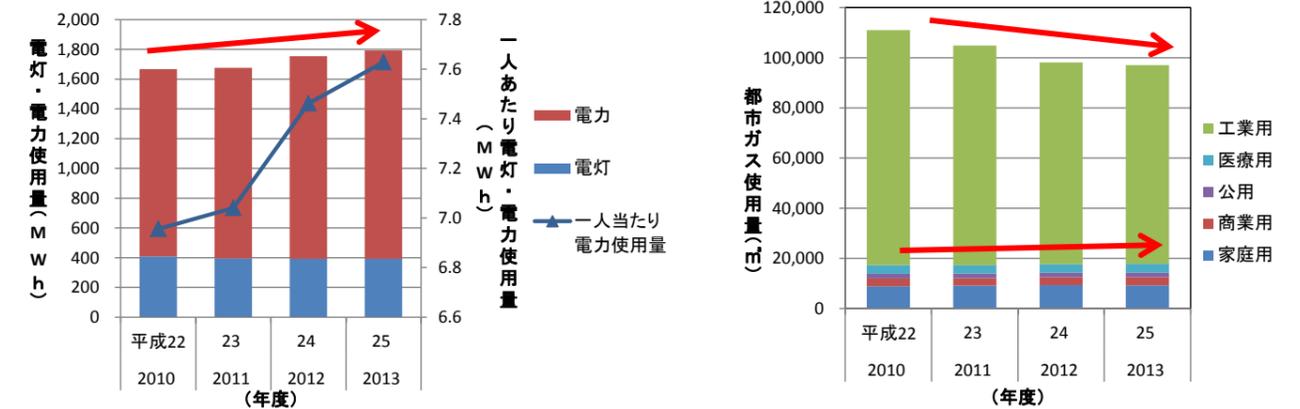
平成 26 年 12 月から超小型電気自動車のカーシェアリング実証事業「き〜☆モビ」を開始した。平成 27 年 4 月 11 日現在、会員数 486 人、利用件数のべ 963 件である。

また、市内 11ヶ所にレンタサイクルのサイクルポートが整備されており、毎年 7,000 件程度利用されている。

幼児 2 人同乗用自転車、通勤用自転車、シニア向け自転車を対象とする自転車購入補助制度もあり、平成 25 年度には 87 件の申請があった。

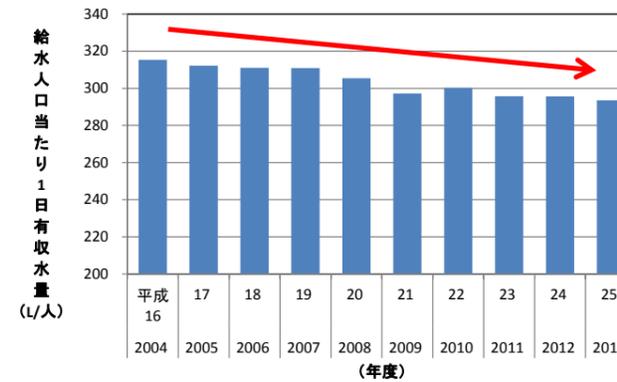
### 4.エネルギー・資源

市内の電灯・電力の使用量は増加している。都市ガス使用量は工業用が大きく減少しているのに対し、全体に占める割合は少ないものの工業用以外は増加している。



資料：安城の統計

図 16 電灯・電力、都市ガス使用量の推移

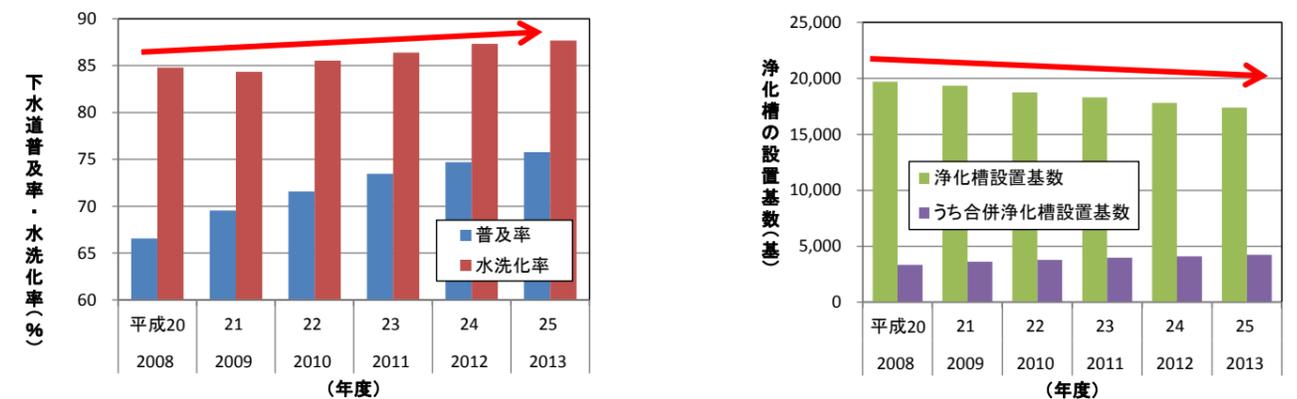


資料：安城の統計

図 17 給水人口当たり1日有収水量の推移

上水道の配水量について、給水人口当たりの1日有収水量をみると、減少傾向にある。

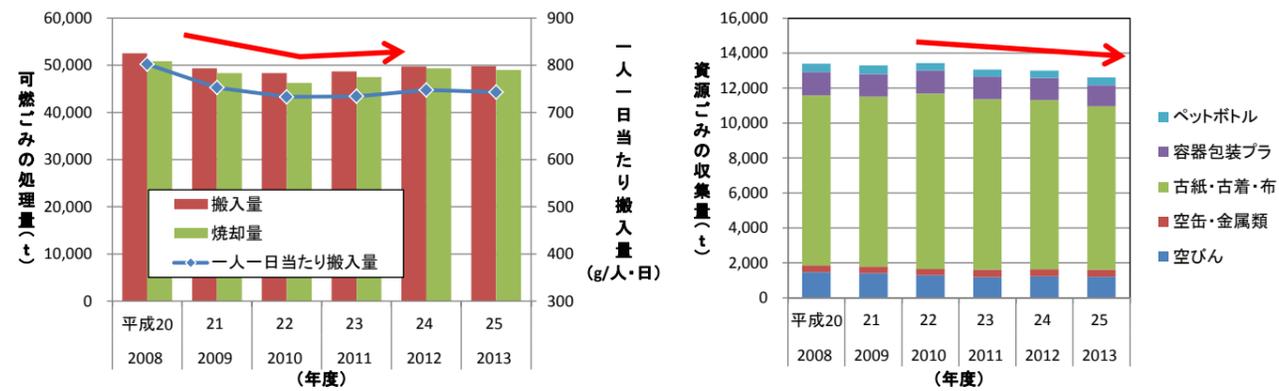
下水道の普及率、水洗化率は増加しており、平成 24 年の下水道普及率は 74.7%、供用区域内の水洗化率は 87.3%である。浄化槽設置基数は減少しているが、そのうち合併浄化槽の設置基数は増加している。



注：普及率 = (供用区域内人口) ÷ (行政区域内人口)、水洗化率 = (供用区域内水洗化人口) ÷ (供用区域内人口)  
資料：安城の統計

図 18 下水道の普及率と浄化槽設置基数の推移

可燃ごみの処理量及び一人一日当たり搬入量は減少傾向が続いていたものの、平成 22 年度を境に増加傾向に転じている。平成 25 年度は、いずれも前年度より減少したものの、引き続き対策が必要である。資源ごみの収集量は、平成 23 年度から減少傾向が続いている。



資料：安城の統計

図 19 ごみ処理量の推移

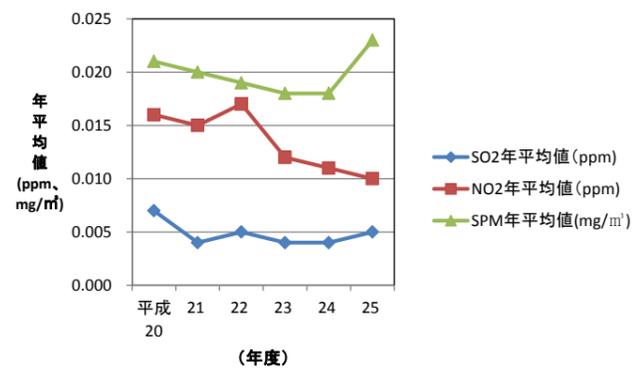
クリーンセンターの焼却施設は 1997 年度の使用開始から 18 年が経ち、長寿命化を検討する必要がある。

## 5.公害

表 4 河川水質調査結果

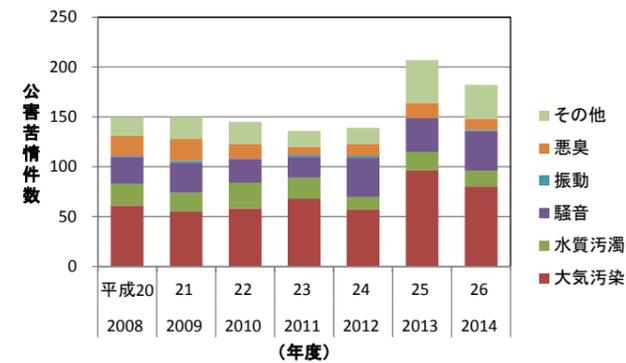
類型	河川名	採水地点	pH	(平成25年度)				評価
				DO mg/L	BOD mg/L	SS mg/L	COD mg/L	
C	長田川	毛賀知橋	7.1	8.2	3.4	6.3	6.6	○
		記念橋	7.2	10	2.5	3.3	6.1	○
		榎前橋	7.1	11	2.9	10.8	5.9	○
		長田橋	7.2	9.3	3.0	13.2	5.5	○
C	半場川	隈田橋	7.1	10.1	4.7	8.5	5.9	○
		和泉橋	7.1	9.1	4.4	91.2	6.8	×
		内浜橋	7.0	8.3	2.6	14.5	5.3	○
C	朝鮮川	山田橋	6.9	8.9	4.3	24.0	5.6	○
C	稗田川	高棚橋	7.0	10.2	1.9	8.2	5.1	○
D	猿渡川	宮橋	7.1	9.7	2.2	8.5	5.1	○
		二百目橋	7.1	10.3	1.9	7.0	4.2	○
C	鹿乗橋	東鹿乗橋	7.0	8.8	2.9	14.3	6.2	○
		居林橋	6.9	7.1	3.9	20.2	5.9	○
B	油ヶ淵	見合橋	7.8	10.3	3.3	16.0	6.8	×

備考：河川は環境基準を超えたもの。BOD,CODについては75%値、その他平均値



資料：環境報告書

図 20 大気汚染物質濃度の推移



資料：安城の統計

図 21 公害苦情の推移

公害苦情は、140 件/年程度で推移していた。平成 25 年度に一旦 200 件を越したものの、平成 26 年度は前年度より減少した。内訳では大気汚染が最も多いが、大半は野焼きに対する苦情である。

## 6.協働

市民が道路や河川などの公共施設の美化活動を行うアダプトプログラムには、平成 25 年度末で 46 の登録者があり、環境美化活動を実施している。

地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょうとの協働により、環境学習イベントや講座を開催している。

部会：自然部会、美化部会、暮らし部会、河川部会

環境アドバイザーには、平成 26 年度末で 36 名の登録があり、総合学習や地域の学習会等に派遣されている。環境アドバイザーのための養成講座は、4 回開催された。

秋葉いこいの広場環境学習センター「エコきち」において、環境に関する各種展示と学習講座・イベントを開催した。

河川水質は、半場川の和泉橋と、油ヶ淵で環境基準を超過していた。

大気汚染物質濃度の年平均値は、減少傾向にあるが、平成 25 年度は SO<sub>2</sub> と SPM が増加した。

環境騒音 4 地点、道路交通騒音 8 地点、道路交通振動 2 地点のいずれも環境基準を超えた調査地点はなかった。

新幹線騒音は、3 地点中 2 地点で環境基準を超えた調査地点があった。新幹線振動では、調査した 1 地点で環境基準を超えていた。

土壌汚染に関して、市内 10 地点でカドミウム、六価クロムなど 7 項目の調査を行ったが、いずれも環境基準を超えた調査地点はなかった。

ダイオキシン類の環境基準が設定されている水質、底質、土壌について各 3 地点、大気環境について 1 地点において調査を行ったが、いずれも環境基準を超えた調査地点はなかった。